おもしろいね！が，きっとみつかる

シニア世代の地域デビューを応援！
～アッティーヴォ～

attivo

「attivo（アッティーヴォ）」とは，イタリア語で
「活動的な，行動的な」という意味です。

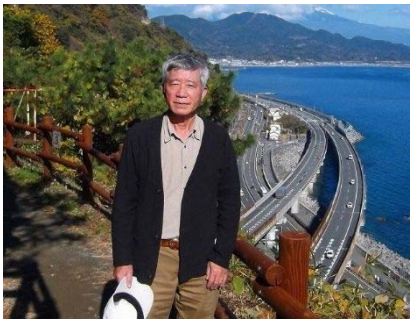
みやシニア活動センター通信 vol.47
（令和４年４月発行）

女子カーリングの輝く未来！！

今年の北京オリンピック，後半は女子カーリングが日本人の気持ちを盛り上げた。

４年前の平昌大会。「そだねー」「もぐもぐタイム」で脚光を浴びた同じ４人の選手が今回も登場した。前回と変わらない，大きな声を掛け合う明るいムードが見ている我々の心を和ませた。違うのは，今回は４人の個性だけでなく，カーリングという競技の本質を我々に伝えた。そして，確実に日本はレベルが高いという事がわかった。印象的だったのは，予選リーグ最終戦でスイスに敗れ，決勝トーナメントに進出できないという記者会見を行っていた最中，韓国が負け日本が準決勝に進出できるという情報が入り，一転，喜びの涙の記者会見に変わった。「今世紀最大級のサプライズだね」という言葉が選手から出た。選手だけでなく我々も大変うれしかった。準決勝，前日に負けた予選リーグトップのスイス戦。主導権を渡さなかった。決勝は予選でも負けたイギリス戦。完敗だった。イギリスが常に日本にプレッシャーをかけ続け，つけ入る隙が無かった。

チームに５人目の選手がいた事を知った。リザーブの石崎選手。裏方で精神的な支柱であったらしい。出場選手が「石崎選手にもメダルをとらせたい」と頑張り，石崎選手も「ちゃんと銀メダルを喜ぼう」と言う。泣かせる話でいっぱいだった。



① 島田さん

② 鈴木さん

③ 鎌田さん

① 民話と放送大学とシルバー大学校と島田新一さん（後編）
② 山に魅せられて　鈴木　泰子さん
③ モノづくりの達人　鎌田　泰二さん

○ 発行／編集　みやシニア活動センター（宇都宮市 保健福祉部 高齢福祉課）
住所：宇都宮市旭１丁目１番５号　宇都宮市役所２階　高齢福祉課Ｄ８窓口
電話：028-632-2368　ファクス：028-639-8575
ホームページ：https://www.city.utsunomiya.tochigi.jp

①　民話と放送大学とシルバー大学校と島田新一さん（後編）

取材：肥後特派員

（前号からの続き）

　そして次のステップに移るため，平成２６年に駒生町のシルバー大学校中央校に入学しました。３回目の大学入学です。あと１つか２つ趣味を持ちたい。得意なものを持ちたい。そしてボランティアで人に披露出来るものを持ちたい。そういう気持ちでした。

　そして島田さんの気持ちにぴったり合うものに出会いました。それが民話です。

　民話とは，昔から伝えられてきた伝説や昔話の事です。世の中の不満や恐れを抱きながら何も出来なかった当時の人々の願いや希望が込められた話と言われています。桃太郎に退治された鬼は，人々を苦しめていた支配者をモデルにしたものだとされています。

　島田さんはクラブ活動を通して民話をいろいろな場で披露してきました。ボランティアでもいろいろな施設に伺いました。特にお年寄には大変喜んで戴きました。その中での晴れ舞台と言えば，年に１回のシルバー大学校の学校祭です。ここでは，１つの話を１０人程度で語り継いでいきます。１つの話の起承転結をうまく繋いでいかなくてはなりません。チームワークを必要とします。１人で１つの話を覚えて語っていくのも大変ですが，チームでやるのはもっと難しい。島田さんは見事にはまりました。そして卒業してからもOB会「藁座の会」を立ち上げ，リーダーとして今日まで頑張っています。しかし，この２年間のコロナ禍，腕をさするばかりです。島田さんが在学中の，平成２７年８月の第３６回学校祭のキャッチコピーは「飛び出せ，第２の青春，地域へ，社会へ」です。なんと，これは島田さんの作品です。シルバー世代の今後の人生の方向を示すいいキャッチコピーではないでしょうか。

　そしてこの２年間，別の重要な事に出会いました。シルバー大学校中央校同窓会，宇都宮下町支部長として腕を振るっています。在学中は横の繋がりの付き合いになりますが，支部活動は卒業した後，同じ地域で先輩から後輩まで縦組織の中で活動します。宇都宮下町支部は北は横山町，海道町から南は簗瀬に至り，福田屋や帝京大学，ＪＲ宇都宮駅もあるエリアです。約１００名の会員がいます。活動としては，畑を借りて野菜を栽培し，その収穫物で芋煮会をやります。また卓球やグラウンドゴルフもやります。年１回発行の文集も２２号になりました。親睦の旅行もやります。昨年は１２月に静岡市の薩埵峠を歩きました。冠雪の富士山を正面に右手が真青の駿河湾，峠との間に東名高速道路，国道１号線，JR東海道線が通っています。スカイブルーの雲ひとつない空にみかん畑を見ながら全員で歩きました。この様に大活躍の島田さんです。昨年１２月には，コロナも収束かと思えるくらいに感染者数も激減してきましたが，オミクロン株の登場で，またそれ以上に拡大して現在に至っています。国のまん延防止等重点措置は３月２１日で解除となりました。

　早く活動が普通に出来る事を祈ります。そして島田新一さんの益々の活躍を祈ります。

② 山に魅せられて　　鈴木　泰子さん

取材：細川みち子特派員

水曜日の朝，天気が良ければ今日もその方は山に行っていることでしょう。

その方鈴木泰子(すずきたいこ)さんは，若い頃から山歩きが好きで，学生時代は『大平山』など地元の山を歩いていました。友人の誘いもあり，平成８年に山のクラブに入り，休日を利用して県内や近県の山歩きのほかに海外のネパールのアンナプルナの２週間トレッキングツアーにも参加しました。登山はとにかく仲間と歩く事が楽しい。その頃の鈴木さんは，月に４～５回は山に行くほど，登山にのめりこんでいました。

平成 17 年に山の仲間が登山クラブを立ち上げたので，それにも参加しました。鈴木さんに「毎回登山する山は計画していたのですか」と伺いましたら「計画も立てていましたが,山頂に立って向こうに見える山を，次はあの山だね」と次から次へ夢が膨らむとおっしゃいました。

それが 50 歳半ばから『日本百名山踏破』という夢になり，10 年後の平成 20 年 10 月 12 日には，百座目の北アルプス立山の山頂に鈴木さんは立たれました。

それまで鈴木さんは，仕事と百名山踏破を両立しながら続けていました。暑い日や寒い日の登山はきつく辛い時もあったそうですが，自分の夢を山の仲間たちが支えてくれたので挫折することなく挑戦できました。特に，一緒に百名山踏破を目指していた仲間たちとは登る山やコースの設定，車の手配，宿の手配，会計などを協力して夢に向かいました。

夢が叶った瞬間は，その仲間が『百座頑張って登ったね!!』の横断幕を用意して，共に喜び合えたのは深い感動とともに仲間たちへのこれまでの感謝で胸がいっぱいになりました。

鈴木さんは日常生活において，トレーニングはもちろん，３度の食事や栄養に気を配り体調管理をなさっています。健康を害すると自分も辛いし，仲間や周囲にも迷惑をかけるからです。そして，絶対に無理をしない。登山途中の悪天候や不都合があった時には，引き返す勇気も必要です。また，山から帰ったら必ず登山の反省をします。その反省こそが，次の登山に繋がるとおっしゃいます。鈴木さんは，登山は山頂に立つこともですが，同じ目標を持った方々と知り合えるのも魅力の１つと話されます。登山仲間からは大正琴の素晴らしさを教えてもらい演奏会に参加することが出来ました。また，シルバー大学校の存在を知り入学（36 期）。更にクラブ活動にも参加して沢山の仲間が出来，世の中の視野が益々広くなりました。

これまで鈴木さんは，那須や日光の山々の清掃登山に参加するほか施設への大正琴演奏ボランティアなどを行いましたが，大学校卒業後は更に趣味も増え，新たに地域との関わりをして行きたいと考えています。鈴木さんは登山の先輩として，皆さんに山の魅力を伝えておられます。今は，ほとんど『古賀志山』に登られ，珍しい花など仲間と見つけながら歩くのを楽しんでいらっしゃいます。同じ山でも，季節や気候，体力，仲間が違うと毎回新鮮で飽きません。

イギリスの登山家，マロリーの『なぜ山に登るのか…そこに山があるから』の名言が思い出されました。意味は諸説あるようですが『山に登るのに理由などない。好きなのだから』明日も晴れたなら，鈴木さんとお仲間の賑やかな声が古賀志山に響くことでしょう。

③ モノづくりの達人　　鎌田　泰二さん

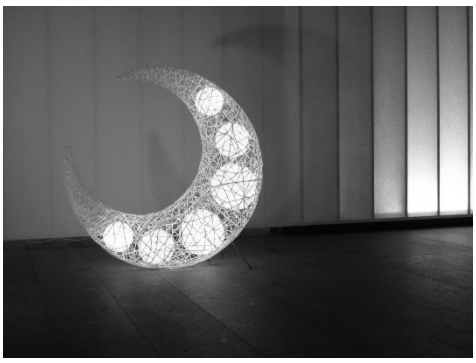
取材：猶原特派員

オミクロン株が拡大中ではありましたが，コロナ対策を十分に行い，鎌田泰二（かまたたいじ）さんの工房をお訪ねしました。玄関を開けるとすぐ目の前に2.4m×1.2m の作業台があり，その上には現在制作中の大型照明のスケールモデルが置かれ，周囲の天井や壁には大小の照明作品が，所狭しと飾られていて圧倒されました。また別室には宇都宮郷土玩具の黄ぶながたくさん置かれていました。種類も豊富で小さなものは 15cm 大きなものだと１m50cm，ラジコン付きで走り回る黄ぶなにも驚かされました。いつも折り紙の大きさしか見たことがないので，大きくて可愛いい，たくさんの黄ぶなにすっかり癒されました。

鎌田さんは，宇都宮で育ち，大学は京都で過ごされ，在学中は漫画研究会を発足させ，卒業後も京都で漫画家やイラストレーター，さらに染め物や京人形等の職人など，さまざまな職種を経験されています。この京都の経験が現在の基礎になっていると感じました。

結婚と同時に宇都宮の実家に戻られデザイナーの仕事をされていましたが，乞われて光ファイバーディスプレイの会社に入社し，本格的に照明デザイナーの仕事に関わられました。丁度，光ファイバーを使った演出の黎明期に当たり，劇団四季や山本寛斎さん，歌舞伎の猿之助さん等の舞台，さらに各種のイベント会場，テーマパーク等の舞台美術照明の分野で活躍されました。アナログであった光ファイバーによる演出照明は，その後デジタル技術による LED に席巻され，撤退を余儀なくされましたが，鎌田さんはその後の目標を「和紙灯り」に見定めていました。

光ファイバーの会社を退職した鎌田さんはその期間を「和紙灯り」の準備期間とし，和紙漉きの産地をめぐり，工夫を重ねて立体に漉いた和紙オブジェを携えて烏山和紙会館の門をたたき社員となりました。その年，栃木県伝統工芸展に新作を出品し，「最優秀賞」を受賞し，翌年の美濃和紙あかりアート展に出品した時には「アート大賞」を受賞されました。烏山では照明の制作だけでなく，地域のイベント照明や中学校の美術授業の指導員もこなし地域に貢献されてきました。



2009 年で職を辞し，雀宮で和紙あかり工房「和灯屋」として独立されました。これまでのデザインの経験や舞台でのモノづくり経験を活かし，ユーザーの要望を聞き，打ち合わせを重ねながら構想を練り，小さいものから大きいものまで和紙を素材として灯り作りに楽しく，忙しく励んでいらっしゃいます。そのほか，地域活動として大谷でのコンサート協力，鬼怒川温泉の「月あかり花回廊」に企画参加，宇都宮市の灯ろう流し，釜川の活性化等活動されてきました。現在は，コロナ過で中止になっていますが，毎年宇都宮空襲日 ７ 月１２日の田川灯ろう流しに「ピースうつのみや」の皆さんと一緒になって協力されています。約１１年前から「ふくべ」灯ろうから「黄ぶな」灯ろうに代わり，当初は黄ぶなの作成から指導されていました。また，地元の要望に応じて工作教室，針金細工作り，作品展の開催等も再開されるようです。暇が出来てもからくり仕掛けを考えたり漫画を描いたりと余念がありません。鎌田さんは「モノづくりの達人」です。

いつまでもお元気で，ますますのご活躍をお祈りしています。